

平成 28 年度の決算を審査

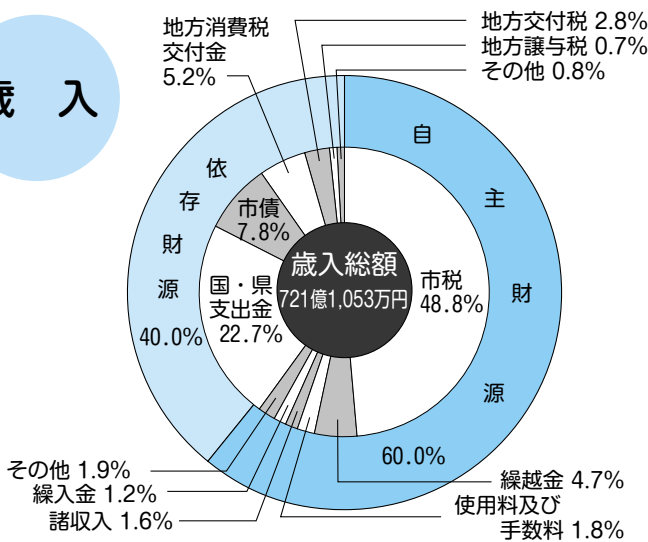
一般会計・特別会計・企業会計の

◆2～3ページの表は、1万円未満を四捨五入してあるため、差引額及び比較増減額が一致しない場合があります。

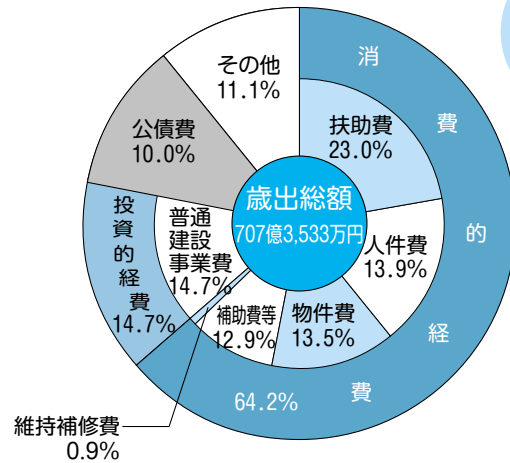
一般会計決算

	歳入	歳出	差引額
平成 28 年度決算額	721 億 1,053 万円	707 億 3,533 万円	13 億 7,520 万円
平成 27 年度決算額	742 億 2,537 万円	708 億 6,116 万円	33 億 6,421 万円
比較増減額	△21 億 1,484 万円	△1 億 2,583 万円	
増減率	△2.8%	△0.2%	

歳入



歳出



一般会計予算決算委員会での主な質疑

問 前市長編成の予算のもと、市長はどのような市政運営を行ったか。

答 継続的な市政運営という責務を果たすために、粛々と予算執行した結果、平成 28 年度決算においては、前市長との政治姿勢の差が数字として顕著にあらわれるまでには至らなかったが、市政情報の見える化や、市民への情報発信を推進するため、第 2 次沼津市都市計画マスタープランの説明会や、市長と語る会「元気な沼津！まちづくりトーク」を開催するなど、前市長とは異なる姿勢で、市民と行政の距離を縮めて市民の行政への参画意識を向上させる取り組みを行ってきた。

問 自主財源確保の状況は。

答 自主財源の根幹である市税の増収に向けて取り組んだ結果、平成 28 年度の収納率は平成 27 年度に比べ 0.4 ポイント増加し 95.7%となった。また、ふるさと納税を積極的に推進した結果、寄附額は平成 27 年度に比べ約 7,300 万円の増加となり、1 億 8,382 万 7,384 円であった。

問 こども医療費等助成の実績と、前年度比の状況は。

答 平成 28 年度は、32 万 2,510 件、5 億 1,884 万 3,544 円を支給し、平成 27 年度に比べ、7,274 件、1,686 万 8,153 円の増加となった。これは、インフルエンザの流行などのほか、制度拡充により平成 28 年 10 月から第 3 子以降の通院・入院にかかる

費用を無料としたことが支給額の増加につながったものと考えている。

問 学校規模・学校配置適正化推進事業の取り組みは。

答 児童生徒数の減少傾向が著しい戸田地区、長井崎中学校区、第二地区においては単学級化が進行しており、近い将来、複式学級が生じる見込みがあることから、戸田地区については、小中一貫校推進委員会を設置し、2 回の会合を開催する中で、既存の校舎を活用した小中一貫校化を図ることについて合意を得た。また、長井崎中学校区と第二地区においては、自治会及び学校関係者に対し、適正化の内容を説明する中で、本市の方針に一定の理解を得たとこ

ろである。

問 勤労者支援利子補給事業の実績は。また、県内他市との比較に対する認識は。

答 教育資金利子補給は、428 件、274 万 9,854 円、住宅建設資金利子補給は、1,477 件、1,763 万 7,341 円、育児支援資金利子補給は、50 件、35 万 2,435 円であり、総額 2,073 万 9,630 円であった。本市の教育資金利子補給制度及び住宅建設資金利子補給制度の利子補給額は、県東部で最高額、県内でも 2 番目に高い金額であり、さらに、育児支援資金利子補給制度は、本市と富士市だけが実施するなど、県内他市と比較しても、遜色のない内容であると認識している。